

第二回

『ひろしま盆ダンス』にぎやかに

～広島ユネスコ協会もシャボン玉遊びなどで参加～



今年も旧広島市民球場跡地で、「ひろしま盆ダンス」（主催・中国新聞社などで構成された実行委員会）が8月10日、11日の2日間行われました。

広島ユネスコ協会は、このイベントに協力して、会場の「青少年交流ゾーン」のブースに、日本の伝統遊び（シャボン玉や竹とんぼ）、韓国折り紙のコーナーを“出店”し、交流を図りました。

会場入口付近の右側にセットされた広島ユ協のブースでは、青少年育成部会（横佩智恵部会長）の役員と韓国人留学生らが、シャボン玉遊びなどのお手伝いに加わり、子ども連れの家族や外国人に声をかけながら、遊びを一緒に楽しみました。松岡盛人広島ユ協会長も参加しました。

初日、二日目とも式次第の流れはほぼ同じで、第一部は青少年センターで活動する若者による「ダンスステージ」、第二部「オープニング（初日は開式も）」の太鼓、浅野氏広島城入城400年記念・武将隊披露に続いて、広島音頭総踊り、総踊り（ドラえもん音頭、炭坑節など）。

「ひろしま盆ダンス」は昨年から、復活した形で始められた交流まつりで、開催の想いは終戦翌年の1946年8月7日、旧市民球場跡地で開かれた「戦災供養盆踊大会」の、供養と復興、平和・誓いを引き継ぎ、広島と世界のつながりを体感する交流イベントとしてよみがえった。

